

第15課 介護は芸術だ

いよいよ最終回。これまでお付き合いしていただいた読者の皆さんに、感謝の気持ちを申し上げたい。最後は、私の持論である「介護芸術論」で本テキストを締めくくりたい。

「介護は芸術」と言われても、ピンとこないかもしれないが、じっくりと私の議論に耳を傾けていただければ、幸いである。

私は芸術家ではないし、芸術の評論家でもない。いわば、芸術の素人である。そんな私だが、これまでの人生経験の中から紡ぎ出した考えを述べてみたい。



第1セクション 芸術とは何か

皆さんは、「芸術」と言われてすぐに何を思い浮かべますか。絵画、彫刻、音楽、演劇、映画、詩、小説などなど、たくさん出てくるでしょう。では、それらに共通する本質とは何だと考えますか。

これまで、それこそたくさんの方が芸術を語っていますが、芸術の本質を見事に抽出していると思われるものは、あまり多くありません。それは、一流の芸術家でさえ難しいことです。ましてや、私ごとができることではありません。しかし、逆に言えば、誰もが自由に自分の芸術観を述べるができるということでもあります。だから、私も自由に自分の考えを述べたいと思います。

「芸術とは、思い・感情・魂^{たましい}を、感性^{かんせい}を用いて、外に向かって表現することにより、外との間に創造^{そうぞうてき}的な交流を生み、そしてその交流を楽しむこと」

何やら難しい定義^{ていぎ}になりましたが、要点^{ようてん}は3つです。まず、芸術とは表現することです。次に、芸術とは創造的であることです。そして、最後に、芸術とは楽しむことです。通常、芸術とは創造的に表現することだと理解されていますが、私は、ただ表現するだけでは不十分だと考えています。一方的に表現するだけでは、それは単なる自己満足^{たんじこまんぞく}でしかありません。外との交流を楽しむことができなければ、芸術の価値はないと考えます。なぜなら、芸術とは「人生を楽しむ」ために存在^{そんざい}すると考えるからです。だから、芸術というからには、「楽しみ」がなければいけないのです。

また、表現する対象^{たいしやう}に「魂^{たましい}」が含まれているので、芸術は宗教^{しゅうきやう}と関係があります。さらに、「感性^{かんせい}」を用いるので、芸術は科学とも関係があります。

それでは、介護と芸術には一体どのような関係があるのかを、以下のセクションでじっくりと考えてみましょう。

考えよう

1) 本文に取り上げられていない芸術^あを挙げてください。

2) 本文に出ている「本質^{ほんしやう}」を使った文章^{ぶんしやう}を作ってください。

3) 本文に出ている「抽出」^{ちゅうしゅつ}を使った文章^{ぶんしょう}を作ってください。

4) 本文に「芸術観」という言葉が出ています。「観」^{かん}を使った熟語^{じゅくご}を挙げて、
意味を説明してください。

熟語
(じゅくご)

5) 本文に出ている「表現」^{ひょうげん}を使った文章^{ぶんしょう}を作ってください。

6) 本文に出ている「創造的」^{そうぞうてき}を使った文章^{ぶんしょう}を作ってください。

7) 本文に出ている「楽しむ」の意味を説明してください。

8) 本文に「芸術とは『人生を楽しむ』ために存在する」と書いてありますが、
あなたはどう思いますか。

9) 本文に、「『魂』が含まれているので、芸術は宗教と関係があります」と書いてありますが、それはどうしてだと思いますか。

10) 本文に、「『感性』を用いるので、芸術は科学とも関係があります」と書いてありますが、それはどうしてだと思いますか。

11) あなたは、著者の芸術の定義をどう評価しますか。

12) あなたの芸術の定義を述べてください。

第2セクション 介護と芸術 理論

それでは、介護と芸術との関係を、『MANGA 介護の日本語初級』を参照しつつ、以下で考えてみよう。

- ① 表現する：利用者は日々の生活の中で、自らの思い・感情・魂^{たましい}を、感性を用いながら、言葉や身体を使って表現する。認知症の方でも、感性は失われてはいない。例えば、下巻第19話から第20話にかけて、サダは「シバマタ」を連呼^{れんこ}していた。そして、介護士はこの利用者の表現を受容し、利用者^{しんてき}の心的世界に入り込み、利用者に対して、自らの思い・感情・魂^{たましい}を、同じく感性を用いながら、言葉や身体を使って表現する。下巻で、クマーリがサダの「シバマタ」に対して共感的に対応していたのがその例だ。だから、利用者も介護士も表現者と言える。なお、この時、両者の関係は全く平等^{まった びょうどう}である。
- ② 創造的^{そうぞうてき}：利用者^{つね}と介護士との交流は、常に「いま・ここ」だけの関係であり、かつ、感性が用いられることにより、自ずと創造的なものとなる。その例として、下巻で、サダは日本舞踊^{げかん ぶよう おど}を踊ることになった。これは、サダとクマーリの創造的な交流から生み出されたものであった。クマーリだけがサダの「シバマタ」を、感性を用いて正しく介護に生かした。外国人^{みごと}にしては見事な仕事ぶりであったと言えよう。
- ③ 楽しむ：以上の作業は、あらかじめ決まっているシナリオ通りの「演技」^{えんぎ}ではない。介護過程^{かてい}の中で自ずと生まれ出てくるものである。利用者^{いしきてき}と介護士は、意識的あるいは無意識的に、この自然な交流を楽しむわけだが、交流のたびに楽しみが大きくなっていくに違いない。サダとクマーリの例を見ても、二人は決して演技^{えんぎ}をしていただけではなく、自然と日本舞踊^{ぶよう おど}を踊るという結

論に至ったと言える。そして、二人とも本当にその過程を楽しんでいた。

以上より、介護には、第1セクションで述べた芸術の定義の3要素（表現・創造的・楽しむ）が備わっていることになる。だから、介護は芸術だと言えると思う。もちろん、介護＝芸術だと言っているのではなく、介護には高い芸術性がある、あるいは、介護の本質は芸術だと主張しているのである。もしそうであれば、利用者も介護士も芸術家ということにならないだろうか。



 **考えよう**

1) 『MANGA 介護の日本語初級』におけるサダとクマーリの交流を、芸術の観点からもう一度読み直してみましよう。

2) 本文に、「認知症の方でも、感性は失われてはいない」と書いてありますが、どうしてそうだと言えるのでしょうか。

読み直す
(よみなおす)

3) 本文に、「利用者の心的世界に入り込み」と書いてありますが、どのようなことか説明してください。

4) 本文に、「両者の関係は全く^{びょうどう}平等」と書いてありますが、それはどういう意味か考えてみましょう。

5) 本文に出ている「『いま・ここ』だけの関係」とはどのような関係なのか説明してください。

6) 筆者は「^{ひっしや}演技」と「介護」は違うと主張していますが、あなたはごどう思いますか。

7) 本文に出ている「^{くわ}介護過程」を詳しく調べましょう。

8) 本文に「自然な交流」という表現がありますが、この場合の「自然」とは
どういう意味でしょうか。

9) 本文に「介護＝芸術」という表現がありますが、これはどういう意味でし
ょうか。

10) 筆者は「介護は芸術だ」と主張していますが、あなたはどのように思
ひっしゃいますか。

11) 本文に、「利用者も介護士も芸術家」と書いてありますが、あなたはどうか
いますか。

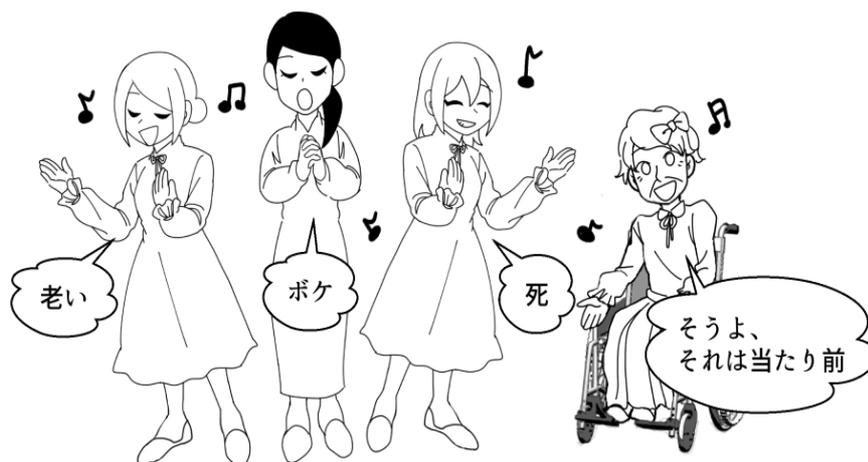
第3セクション 介護と芸術 実践

前のセクションで介護は芸術だと論じましたが、世の中には、この理論を裏付けるような例がいくつもあります。中でも、私が感銘を受けた2つの例をご紹介します。

まずは、2016年7月3日付けの毎日新聞で紹介された、現代美術家の折元立身さん(69)の話です。同氏は身体パフォーマンスの芸術家ですが、20年間にもわたる実母(97)との介護生活そのものを、写真や映像を使って芸術作品に仕立て上げました。HPで見られますので、まずはご覧ください。同氏はアルツハイマー病とうつ病を患っている実母を一人で介護してきましたが、大変な苦勞を微塵も感じさせない、ユーモラスな作品群となっています。私は、介護をする者とされる者との交流が芸術であると論じました。この例でも、同氏と実母の間にそのような交流は生じていたと思いますが、同氏はプロの芸術家なので、その交流を芸術作品として発表したわけです。彼はこう言っています。「芸術は崇高なものではなく、生活の中にある。だから、介護だってアートになるんだ」と。けれども、同氏も70歳近く、いわゆる「老々介護」です。この先一人で介護を続けるのが難しくなっていますが、「ここで介護を止めるわけにはいかない」と強い気持ちでいます。

次は、岡山県和気町で行われている演劇の話です。名付けて OiBokkeShi「おい・ボケ・死」。地元の演劇人、介護士、学生、主婦たちが、認知症徘徊劇などの活動を通じて、認知症の人との関わり方や介護の仕事の魅力を伝えています。目的は、「おい・ボケ・死」を社会が自然に受け入れる新しい文化を作り出すことにあります。これらの活動は、具体的な介護現場での芸術性を示しているわけではありませんが、介護の背景にある「おい・ボケ・死」を、演劇という芸術を使って表現しています。

以上の例からも分かりますが、どうやら介護には身体を動かす芸術が合っているような気がします。身体パフォーマンス、^{えんげき おど}演劇、踊り、歌などです。私は昔よく演劇を見たものですが、介護士もこのような芸術に強い関心を持ってほしいと思います。



考えよう

1) 本文で紹介されている現代美術家の^{おりもとたつみ}折元立身さんの作品をHPを見て、感想を述べてください。

2) 筆者は^{ひっしゃ おりもとたつみ}折元立身さんのように、介護を芸術作品として発表すべきだと考えているのでしょうか。

3) 折元立身さんが「老々介護」を続けている^{しんきょう すいそく}心境を推測してみましょう。

心境(しんきょう)
推測(すいそく)

4) 本文に、「『老い・ボケ・死』を社会が自然に受け入れる新しい文化を作り出す」と書いてありますが、この言い方には、現実はそうでないという意味が含まれています。これに関してあなたはどのように考えますか。日本のことでも自分の国のことでも構かまいません。

構かまう
(かまう)

5) 本文に「芸術性」という言葉が出ています。「〇〇性」という言葉を他にも探し、それらの意味を考えましょう。

6) 筆者は OiBokkeShi の活動ひっしやを本当はどう評価しているのでしょうか。

7) 筆者はどのようにして「どうやら介護には身体を動かす芸術が合っている」と考えているのでしょうか。あなたなら、どんな芸術が介護に合っていると考えますか。

第4セクション Kaigo Artist を目指して

さあ、いよいよ最終セクションとなりました。これまでに学んだことをおさらいしましょう。

第1課 にんげんとはなにか

最初はよく分からなかった「人間」についての理解は深まりましたか。これは誰^{だれ}にとっても難問^{なんもん}です。「人間」というのはそれほど奥深^{おくぶか}いものなのです。最近流行^{はや}りのAIがどれほど進化^{しんか}しても、それは機械^{きかい}に過ぎないわけで、決して人間になることはできないのです。

第2課 ひとはこうりゅうするのがほんのう

「言わぬが花、知らぬが仏^{ほとけ}」という諺^{ことわざ}や、「あうんの呼吸」という言葉があります。コミュニケーションの達人になるのはなかなか難しいですが、コミュニケーションを単なる技術（スキル）として考えるのではなく、それが人間性^{こんぽん}の根本であることを理解してほしいのです。「絆^{きずな}」も是非^{ぜ ひ}覚えてください。

第3課 いきてしぬこと、それがじんせい

哲学者^{てつがくしゃ}のハイデガーは、「死ぬまでの限られた時間を常に意識して自分の道を進む」のが人間だと考えました。はたして、これは認知症の人にも当てはまるのでしょうか。「生きる」ことや「死ぬ」ことを考えるのは介護士^{しゅくめい}の宿命です。

第4課 ろうかのしょうたいはなにか

利用者に「老年期こそ人生最高の時だ」と思ってもらえるような介護を目指すべきです。

第5課 かみさまいがいみんなしょうがいしゃだ

障害から立ち直る過程がリハビリですが、訓練室ではなく、生活の中で自然に行う「生活リハビリ」という考えも普及ふきゅうしています。

第6課 ひとほうごかないとしぬ

自分の暮らしの中で、どれほど「動き」が大切かを改あらためて考えてみましょう。

第7課 ひとたべないとしぬ

口から食べることの大切さを改めて考えてみましょう。胃ろう以外いにやりようがないかどうか、ぎりぎりまで方法さぐを探ることが大切です。

第8課 ひとださないとしぬ

便秘べんぴは利用者の大敵たいてき。最大限の注意を払ひましょう。食事や入浴の最中に排便かんげいが起きても、大いに歓迎しましょう。

第9課 ひとせいけつにしなとしぬ

日本人ほど清潔好きこくみんな国民はいないかもしれませんが、介護士にとって感染症予防は最低限のマナーです。「手洗い」と「うがい」を習慣しゅうかんにしてください。

第10課 ひとねむらないとしぬ

睡眠中、頭と体こうごが交互に休んでいるとは不思議です。もし、頭と体が同時に休めば、どうなるのでしょうか。

第11課 わらいがせかいをすくう

世界中の人が同時に笑うギネスブック記録きろくがあってもいいですね。

第12課 にんちしょうはしゃかいのおにもつか その1

認知症の人を薬^{くすり}漬けにする問題が大きくなっています。「薬^{たよ}に頼らない」介護の重要性が高くなっています。これには「パーソン・センタード・ケア」という考えが参考になるでしょう。

第13課 にんちしょうはしゃかいのおにもつか その2

もし、「私」というものが虚構^{きょこう}（フィクション）だとすれば、認知症の人が「私らしさ（自分らしさ）」を失っても、特に問題はないはずです。だって、生きるために虚構（フィクション）なんて、本当は必要ないからです。

第14課 おかねがいちばんだいじか

お金より大切な「宝物^{たからもの}」を探しませんか。介護の仕事をするれば、給料の割に探しやすいと思います。

第15課 かいごはげいじゅつだ

介護は芸術だと述べましたが、介助はそうでもありません。両者の区別^{くべつ}をしっかりと頭に入れましょう。

それにしても、皆さんはたくさん^{みな}のことを学んできましたね。そんな皆さんの努力^{むく}が報われないわけがありません。たとえすべてを理解していなくても、大丈夫です。ほんの少しでも、介護は芸術^ふなのだと分かってきたのであれば、皆さんは **Kaigo Artist** への第一歩を確かに踏^ふみ出したことになるのです。自信を持って、介護の学びを続けてください。皆さんの人生^{かんぱい}に乾杯！



 **考えよう**

- 1) このセクションでは課のタイトルがひらがなで書いてありますが、抵抗感ていこうかんはありませんか。
- 2) 本文に出ている AI と人間の違いを説明してください。
- 3) 本文に出ている「言わぬが花、知らぬがほとけ仏」「あうんの呼吸ぶんしょう」を使った文章を作ってください。
- 4) 本文に出ている「絆きずな」を使った文章ぶんしょうを作ってください。

5) 本文に出ているハイデガーの言葉は、認知症の人に当てはまると思いますか。

6) 本文に出ている「生活リハビリ」について詳しく調べましょう。

7) 本文に「日本人ほど清潔好きな国民はいない」と書いてありますが、あなたはそう思いますか。あなたの国ではどうですか。

8) 本文に「もし、頭と体が同時に休めばどうなるのでしょうか」と書いてありますが、あなたはどうなると思いますか。

9) 本文に出ている「認知症の人を薬漬けにする問題」を詳しく調べましょう。

10) 本文に出ている「パーソン・センタード・ケア」を詳しく調べましょう。

- 11) 本文に「『私』というものが虚構（フィクション）だ」と書いてありますが、これはどういう意味か説明して下さい。
- 12) 本文に出ている「お金より大切な『宝物』」とは何だと思いますか。また、なぜ筆者は「介護の仕事をするれば、給料の割に探しやすい」と思っているのでしょうか。
- 13) 介助と介護の違いを説明してください。また、筆者はなぜ介助は芸術ではないと言っているのでしょうか。
- 14) 本文に出ている **Kaigo Artist** に対する感想を述べてください。あなたもそれになりたいですか。